

# 平成29年度授業改善推進プラン【社会】

〔教科の観点〕

- ①社会事象への関心・意欲・態度 ②社会的な思考・判断・表現  
③資料活用の技能 ④社会的な事象への知識・理解

教科	生徒の実態と分析	指導上の課題	授業改善の視点と方策
1年	<p>社会科への関心・意欲が高く、授業中の発言や意見発表も積極的な生徒が多い。授業規律を守って、しっかりと臨む姿勢を多くの生徒がもっているが、教科書等の学習道具の管理やノートに書き取る速度、集中力の継続等、課題となる点もある。</p> <p>授業以外の学習においては、取り組む量や質に個人差が大きい。</p>	<p>小学校までの既習事項の定着量や生活に基づく基礎知識の量に個人差がある。</p> <p>また、学習する語句や社会的事象について、自分の言葉を用いて説明することに苦手意識をもつ生徒が多い。</p>	<p>基礎的・基本的な知識の定着のために、毎時間に既習事項の確認と授業の振り返り、宿題の確認を行う。授業では、問題解決的な学習を取り入れる。その際、問題解決のための視点の持ち方を提示したり、グループ活動を取り入れることで主体的な学習や学び合いの場を増やしたりし、適度な難易度となるようにする。</p>
2年	<p>社会科への関心・意欲が高く、授業中の発言や意見発表も積極的な生徒が多い。授業規律を守り、ペアやグループでの話し合い活動を活発に行える。</p> <p>授業以外の学習においては、プリントやノートを有効活用し、授業の予習・復習を行っている生徒もいる。一方で、既習事項の定着不足が見られる生徒も多い。</p>	<p>資料読み取りにおいては、よい視点をもって気付くことができるが、その気付きを個人作業の中で自分の言葉を用いて説明したり、記述したりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。</p>	<p>基礎的・基本的な知識の定着のために、毎時間に既習事項の確認と授業の振り返り、宿題の確認を行う。特に既習事項の定着を徹底していく。</p> <p>授業では、グループで行う問題解決的な学習だけでなく、個人作業を丁寧に行う時間を十分に確保することで、生徒一人一人の個々の学力を確実に付けられるように工夫する。</p>
3年	<p>社会科への関心・意欲が高く、授業中の発言や意見発表も積極的な生徒が多い。授業規律を守り、ノートをとるといった基本的なことは身に付いている。</p> <p>既習事項の定着に個人差が見られていたが、資料を見る視点や、雨温図の読み取りなど、反復学習を継続することで、個人差が小さくなってきた。</p>	<p>基礎・基本の定着を更に図るとともに、全体的な学力向上が課題である。</p> <p>定期考査では記述式の問題の正当率が低い。論理的な思考力・表現力を充実させることが今後の課題である。</p>	<p>基礎の定着が不可欠なため、毎時間に既習事項の確認と授業の振り返り、宿題の確認を行うようにする。</p> <p>また、グループワークではクリティカル・シンキングを育むための課題を意識して設定するとともに、自分の意見を書く機会を多く設け、書き方の指導を反復して行う。</p> <p>定期考査においては、都立入試の記述問題を見据えた設問、解説を繰り返す行う。</p>